

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871300152
法人名	医療法人 慶尚会
事業所名	グループホーム テレサ
所在地	四国中央市土居町蕪崎167
自己評価作成日	平成 23 年 5 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いのある生活 これを理念に利用者さんと職員が毎日一緒に喜び合い一緒に楽しみあい、毎日が穏やかに過ごせる生活を支援していきます。季節感を大切に、季節の食材を使った食事 行事日には行事あわせた、食事を楽しみ、食べることに楽しみを持っていただく食事づくりを心がけ、食後はあーおいしかった。の言葉に励まされ、お手伝いを御願いしながら食事づくりを行っています。壁画など屋内の飾りつけも、利用者さんが、作品づくりから、飾る付けまでしてくださり、季節感を感じながら過ごしています。地域や家族様との連携も大切に、健康で過ごせるテレサづくりをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は病院であるため医療や健康管理も充実し、利用者や家族は安心して過ごすことができている。また、料理の得意な職員が多く、季節の食材を使い栄養バランスのとれた美味しい食事が日々提供され、利用者の食欲も増し大変喜ばれている。職員のチームワークが良く、理念にある「笑」が根付いた支援が行われている事は、利用者の穏やかで自然な生活ぶりに表れている。今後は、運営推進会議等を活かし地域との関わりをより深め、記録の充実を図るなど職員のさらなるレベルアップを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム テレサ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 寺嶋 和子

評価完了日 平成23年5月27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) いつも目に付くところに掲げてあるため、認識し意識して毎日のケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 「笑」を理念に利用者が自然体で居心地よく安心して暮らせるよう職員は日々心がけている。目に触れる所に理念を掲示し常に基本に立ち返るようにしている。家族からの「入居して表情が良くなった」との言葉は実践に向けての励みとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃活動の参加や消毒作業へ参加を行い地域の一員として認識している。会合への参加もおこない防災についての話し合いも行っている。地域の行事の参加も行えた。	
			(外部評価) 事業所は積極的に地域と関わりをもつために、清掃活動や集会に参加したり、利用者と共に公民館祭に出かけたりしている。多数の地域住民の参加があった事業所の夏祭り「テレサ祭り」の復活も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 自治会の参加で地域の認知症の理解が見受けなかった。今年はキャラバンメイトのサポーター養成講座などを地元で開催できるよう働きかけたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議もテレサの担当が替わり2年目を向かえ、 推進委員さんも会の持ち方など協力を頂きいろい ろな意見や情報交換もでき会の進め方など前向きな意見 を頂いている。	
			(外部評価) 昨年度から、頻回に運営推進会議を開催し、家族や地 域住民等多くの参加者に運営推進会議のもつ意義を理 解してもらえるよう努めている。司会を務めてくれる 参加者もあり、防災について話し合ったり、地域との 関わりについて助言をもらう等活発な意見交換がされ ている。	熱心な参加者の協力を得て、回を重ねるごとに多角的 な意見交換が行えるようになってきている。今後も定 期的に開催し、さらなるサービス向上に活かして欲し い。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、ご意見や指導を受 けている。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に毎回参加し、アドバイ スしてくれる。市が主催するケアマネジャーの会やグ ループホームネットワークの会には管理者が積極的に 参加し、情報交換等連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望の強い方が入所され、施錠をしてなかったた め何度か無断外出されたが今は落ち着いてすごされ、 一度も施錠することなくすごされている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアについて良く理解し、 様々な問題についてもその都度話し合いを行ってい る。管理者は今後さらに勉強会等で知識を深め、支援 に活かしたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止は難しい事例もある。ベッド柵を自分ではずし転落の危険がある人をどうするか？職員は虐待を意識し見過ごさない介護を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関しては、介護支援専門委員会の勉強会があったが、参加できなかった。勉強する機会があったら参加し、他の職員にも伝達したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用開始に際し説明を行っている。契約書はすべて読み上げ、要所要所説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族様の訪問のときは、状況説明など近況説明を行い家族様の意見をうかがっている。日々の申し送りなどのときにスタッフで話し合い希望や不満に耳を傾け不満解消などの話し合いが行われている。	
			(外部評価) 家族には、年2回テレサだよりや毎月手紙を送付する等、事業所の活動状況や利用者の生活、健康状態を報告している。また、訪問時や電話等で良く話を聴き、思いや意見を汲み取るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 役割を分担することで運営に参加できている。カンファレンスなどの機会が少ないので、意見の交換ができる時間を持てるようにしていく。 (外部評価) 管理者や職員はチームワークが良く、常に報告、連絡、相談、協力を心がけ、話しやすい関係が築けている。現場で出た意見や要望を管理者から代表者に伝えられる体制も整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況は管理者が事務長に報告し、代表者に伝え把握していただいている。働きやすい職場になるよう、改善案なども解決してくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は積極的に参加できるよう、支援している。研修の情報は職員全員に分かるよう張出し声掛けしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 四国中央市のグループホームの交流会に参加している。交流会の主催する勉強会などは職員も参加できている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に要望や不安なことなど、生活歴などや本人の好きなことなど収集を行い、スタッフ間に周知してもらい、本人との信頼関係を築く関係づくりに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 開始にあたり、不安なこと、要望などを聞き、問題解決になれるよう話し合っている。また入所しても家族関係の継続を伝えともに介護していけるよう話あっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用にあたり、環境の変化から不安や混乱が起こらないよう気配りし落ち着いた生活が送れるように支援を家族やスタッフとともにやっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の生活パターンを観察しさりげなく、本人の思いを知ることに努め、さりげなく明るいケアを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所時に家族様と利用者様、介護者がお互いによい関係で利用者様を支援することを話し合い、訪問時は近況報告をしている。また請求書発送時はその月のテレサの様子や予定など簡単な手紙を入れている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの人も、入所して日がたつと訪問が少なくなる。近隣から入所した人は散歩などで交流が持てたりもしている。入所以前の美容院に行かれる方は施設が支援している。 (外部評価) 楽しみとなっている家族との外出が継続できるよう支援している。また、住み慣れた町内会の行事や行きつけの美容院へも出かけている。毎月ホームに来る移動パン屋で好きな物を選んで買い、おやつの時間に食べるという楽しみがあり、入居後に築いた馴染みも大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食卓の席などを配慮し、トラブル防止を行っている。仲良く過ごせるよう職員が加わったり、壁紙づくりなど一緒に作業したりと、利用者さん同士の会話が増えてきている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所の理由は入院が主なため、支援にいたらないが、入院中の散髪などは以前の利用し対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 以前からの入所者さんは生活のペースができていのでペースを乱さないよう支援している。帰宅願望の強い方は時間をかけ話を聞くなど本人の気持ちが伝わるように話をきく姿勢を心がけている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに寄り添い聴く姿勢を大切にしている。会話の中から考えや思いをうまく引き出したり、表情や態度や行動からも把握できるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の支援のあった居宅支援事業所などからの情報収集や家族様や本人からの聞き取りなど把握につとめている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 夜勤者からは夜間の様子の申し送り 朝のバイタル測定や食事量やトイレの様子などから様子観察を行い、洗濯の片付けや簡単な料理の手伝い、趣味活動の準備などでできることの支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 介護計画は職員などと意見を聞き作成している。また 作成前には、ご家族様の意見、希望を確認している。 (外部評価) 介護計画は計画作成担当者が主となって、利用者や家 族、関係する職種からの情報や意見を反映して作成し ている。今後は記録を充実させ、質の高い介護計画と なるよう積極的に研修会等に参加し、職員のレベル アップを図りたいと考えている。	記録についての外部研修に複数の職員の参加が決まっ ており、さらにレベルアップに向けての取り組みを期 待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 入居者の個人ノートを作成し個別の記録を行行情報の 共有に勤めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 外来受診の対応 外来リハビリの通院介助 ボランテ アさんによる2ヶ月ごとの散髪援助 など行ってい る。また月1回であるが、パンやさんにもきていただ き、買い物を楽しんでいる。体を動かす機会が少ない ため、毎日午前、午後2回リハビリ体操をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域のボランティアさんによるコーラスグループの訪問 やふれあい委員さんの訪問や地域の公民館行事の参加 など行っている。お天気のよい日は、近くを散歩した り郵便局と一緒にいってもらったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 敷地内に母体が病院があるため、体調が悪くなるとす ぐに受診をしてもらっている。定期的な健康管理や服 薬管理もしてくれている。またかかりつけ医が外部の 病院の方は定期的に受診できるよう支援している。 (外部評価) 隣接する母体病院をかかりつけ医とする利用者が多 い。他の医療機関をかかりつけ医としている利用者の 受診は家族が対応しているが、母体に要員の医師から 電話や文書で情報提供を行う等、適切な医療を受けら れるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 受診時に報告、相談している。看護婦さんが出向いて 着てくれることもある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供や入院者には定期的に訪問し情報交 換をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化の入所者は家族、主治医、テレサの職員で話し 合い、家族が選択し、母体が病院であるため入院する ことが多い。また重度化の方は、訪問時に家族に意向 を聞き対応している。 (外部評価) 事業所での看取りは行っていない。入居時に方針につ いて説明し、入居後状態に応じてその都度話し合っ ている。主に座位がとれなくなり風呂場での入浴が困難 と判断した時に、利用者や家族、医師、職員と今後に ついて話し合いを行っている。必要に応じ関係機関と の連携支援も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 病院の敷地内にあるため、まず病院に連絡し指示をもらう。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署にきていただき防火訓練は行ったが、職員の入れ替わりのあるため、早急に職場内の防火訓練を行う予定。また防災については、運営推進会議や地域の会合に参加させていただき、連携をとっている。 (外部評価) 消防署立会いでの訓練は毎年行っている。運営推進会議では防災について毎回話し合われ、近隣を巻き込んで訓練をしてはどうかという意見が出されている。また、事業所を地域の避難場所として提供する用意がある。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、声掛けなどに気をつけている。その人に合わせた話し方や接し方を心がけ自尊心を傷つけないような支援を行っている。 (外部評価) 職員は、自分がされたら嫌な事はしないということを基本にし、特に排泄時や居室に入室する時等は羞恥心や自尊心を傷つけない対応を心がけている。各々の個性を見極め、一人ひとりを尊重した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉がけのとき、選択できるように、決定でなく本人が答えを出すような話かけを行い、利用者さんの意思を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の体調などによりペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選び着替えている。入浴時の衣類の準備のときは季節と好みを考え準備している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行事毎の行事食、お誕生日は本人の好物をメニューに取り入れ、食事を楽しんでいます。季節を感じられるよう季節の食材も時には職員が家庭から持ち込み、料理自慢の職員が多く、食事は皆さん楽しみにしてくれています。準備もできることは御願いしジャガイモの皮むき、もやしの根きりなど手伝ってくれています。 (外部評価) 料理上手の職員が多く、冷蔵庫の食材を見て献立を立てたり、利用者に「今日は何が食べたい」と希望を開き入れながら毎回バランスの良い美味しい食事作りをしている。入居者の食も進み、大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は毎食、全員が食べ残しなく食べられています。体調が悪い人は食欲が戻るまで、梅干 など添え、時にはお雑炊にしたり、食間にプリンやカステラなど食べてもらったり、水分が不足しないようポカリやアクエリヤスなど飲んでもらって水分量の不足を防いでいます。カルテに水分量も記録し管理しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行ってもらっています。自分でできない人は介助で行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人を除き、トイレでの排泄ができますが、リハビリパンツを利用の人は時折、リハビリパンツをはかず尿失禁があり、下着を居室に隠すため、さりげなくリハビリパンツを居室に補充したりしている。寝たきりに人は定期的に交換をしている。 (外部評価) 一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握し、個別の対応方法を職員間で話し合い、トイレでの排泄を支援している。便秘気味の時には自然に排便できるよう食事面での配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘薬の調整、トイレ使用後のトイレチェックを行い排便コントロールができています。便秘の人には冷たい牛乳を飲んでもらい、排便できるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は特別な行事がない限り、ほぼ毎日対応し入浴してもらっている。入浴意欲が出るよう、浴槽のお湯をたっぷりいれたり、二人で仲良く入ったり、安全確認だけで一人で入浴したりと入浴時間は危険がない限り本人のペースで入っている。 (外部評価) 職員は時間や曜日、入浴回数等が利用者の希望に沿えるようタイミングや声かけ等の対応を工夫しながら支援している。また、会話をしながらゆったりした時間を楽しみ、清潔を保てるよう丁寧に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 新しく入所した方も施設の生活になれ、思い思いの時間をすごしている。夕方、不安症状が出る人には、職員と一緒にテレビを観たり、会話をしたりして過ごしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬内容は毎月処方内容の説明書を薬局よりもらい、理解している。飲み間違いの起こらないよう、用法ごとにセットし指示どうり、服薬介助をしています。他院のお薬も受診日に、医師よりお電話いただき指示がある場合は職員全員に指示が通じるようノートで申し送っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 壁画づくりなどの作品づくりを入所者さんで行っている。庭にゴーヤを植えて周囲の草取りをして収穫を楽しみにしています。(昨年もたくさん収穫し食卓を楽しませました)お誕生日のお祝いは個々にしています。行事食も行事日にあわせ節分には豆まきや食事を楽しんでいます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎週、宗教の参加をしている方は、娘さんの援助で続けられています。戸外は周辺が田園があるため、お天気のよい日は散歩にも出かけています。 (外部評価) 散歩を日課としている利用者を支援したり、地域の郵便局や公民館等日常的に出かけている。家族と一緒に外出することを積極的に支援している。今後は運営推進会議の議題としてボランティアの協力を得ることも協議していくよう進めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 昨年末より、パンやさんの訪問車が月1回きてくれるように御願いし、その日は家族様よりお預かりしたお金で、パンを買い、3時のおやつにコーヒータイムにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は入り口のすぐ手の届くところにあるため、自宅の電話同様使用しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアは窓が大きく開いているため、日差しを避けるため、ブラインドの開閉調整を行い、利用者さんが快適に過ごせるように支援しています。お花は職員が季節の花を持ってきてくれたり、散歩のとき病院敷地内の花を摘んで飾ったりしています。壁画も季節ごとに利用者さんと一緒に飾っています。夏はよしずを窓にかけています。 (外部評価) 廊下や食堂、リビング、トイレ等事業所全体がゆったりとした造りになっている。窓が多く、外の景色を見る事ができ開放感がある。また、掃除が行き届き清潔が保たれた空間には、季節の花や利用者と職員手作りの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが広く、めいめいが好みの場所でくつろいだりテレビを観たり、会話したりとゆったりと過ごせている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) プライバシーを大切に、一人ひとりその人らしい居室となっている。好みのものや馴染みのものを飾ったり、自分の作品を飾ったりと思ひ思いの居室となっている。 (外部評価) 大きなクローゼットが備え付けてあるので居室内がすっきりした感じがするが、使い慣れた物を自由に持ち込み、思い思いの居室となっている。職員は臭いや衛生面に気を配り、居室が分かりやすいように入り口に目印を付ける等工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 屋内は居室、トイレ、浴室すべてがバリアフリーになっているため、車椅子の人も自由に行動ができています。手すりもあるため、高齢の人も歩行時安全に歩けている。各部屋に表札はついているが物忘れがひどく、自分の居室をすぐに忘れる人には廊下からも見える表札を作り、声掛けで自分の部屋に帰れている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871300152
法人名	医療法人 慶尚会
事業所名	グループホーム テレサ
所在地	四国中央市土居町蕪崎167
自己評価作成日	平成23年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いのある生活 これを理念に利用者さんと職員が毎日一緒に喜び合い一緒に楽しみあい毎日が穏やかに過ごせる生活を支援していきます。健康に過ごしていただくために、リハビリ体操も毎日、午前、午後の2回かかさず行っています。毎日の食事作りも、できることは手伝ってもらいながら、季節の行事 お誕生会 など行事として取り入れながら、普段の食事づくりも季節の食材を使い、あーおいしかったの言葉に励まされながら、楽しい食事づくりを行っています。地域の行事に参加できるよう、地域の方から情報を頂、参加しています。家族様との連携も行い利用者さんを支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は病院であるため医療や健康管理も充実し、利用者や家族は安心して過ごすことができている。また、料理の得意な職員が多く、季節の食材を使い栄養バランスのとれた美味しい食事が日々提供され、利用者の食欲も増し大変喜ばれている。職員のチームワークが良く、理念にある「笑」が根付いた支援が行われている事は、利用者の穏やかで自然な生活ぶりに表れている。今後は、運営推進会議等を活かし地域との関わりをより深め、記録の充実を図るなど職員のさらなるレベルアップを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム テレサ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏 名 寺嶋 和子

評価完了日 平成23年5月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑い」をテレサの理念として職員一人一人が日々入居者が笑顔で過ごせるように、心がけている。	
			(外部評価) 「笑」を理念に利用者が自然体で居心地よく安心して暮らせるよう職員は日々心がけている。目に触れる所に理念を掲示し常に基本に立ち返るようにしている。家族からの「入居して表情が良くなった」との言葉は実践に向けての励みとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の会合の参加 清掃活動の参加 推進委員さんも地域の方が参加してくれていて、地域の 一員と認識してもらっている。	
			(外部評価) 事業所は積極的に地域と関わりをもつために、清掃活動や集会に参加したり、利用者と共に公民館祭に出かけたりしている。多数の地域住民の参加があった事業所の夏祭り「テレサ祭り」の復活も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職員も市の認知症キャラバンメイトの講習を受けている人などと共同して、地域の会合時認知症サポーター養成講座を持ちたいと具体的ではないが計画をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議も何とか軌道に乗り出した。推進会議の 委員様がいろいろな有知識者の方たちで、いろいろ教 えていただいている。ご意見を実行できるように取 組んでいきたい。	
			(外部評価) 昨年度から、頻回に運営推進会議を開催し、家族や地 域住民等多くの参加者に運営推進会議のもつ意義を理 解してもらえよう努めている。司会を務めてくれる 参加者もあり、防災について話し合ったり、地域との 関わりについて助言をもらう等活発な意見交換がされ ている。	熱心な参加者の協力を得て、回を重ねるごとに多角的 な意見交換が行えるようになってきている。今後も定 期的に開催し、さらなるサービス向上に活かして欲し い。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議参加時いろいろ意見をいただいている。 意見をいただいたことは実現できるように努力してい きたい。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に毎回参加し、アドバイ スしてくれる。市が主催するケアマネジャーの会やグ ループホームネットワークの会には管理者が積極的に 参加し、情報交換等連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアをめざし毎日ケアを行っている が、帰宅願望が強く出たときは、やむを得ず施錠して いる。フロア内を自由に行動してもらい落ち着くこと が多い。	
			(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアについて良く理解し、 様々な問題についてもその都度話し合いを行ってい る。管理者は今後さらに勉強会等で知識を深め、支援 に活かしたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止は行われている。また新規職員には虐待防止法の認識できる資料などを読んでもらっている。また介護時の指導にも取り入れ説明している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会がまだ持てていなく、資料集めから行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時にきちんと時間をかけ、契約書や重要事項説明書の中身をお互い確認しながら行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の委員さんに2名お願いしている。その他の人は訪問時要望を聞かせてもらえるよう、会話のなかに入れている。 (外部評価) 家族には、年2回テレサだよりや毎月手紙を送付する等、事業所の活動状況や利用者の生活、健康状態を報告している。また、訪問時や電話等で良く話を聴き、思いや意見を汲み取るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 改善策や新しい取り組みは、職員の意見をまとめ、職員が同意できる内容で行っている。 (外部評価) 管理者や職員はチームワークが良く、常に報告、連絡、相談、協力を心がけ、話しやすい関係が築けている。現場で出た意見や要望を管理者から代表者に伝えられる体制も整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況は勤務表作成時報告し現場の状況を確認している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ヘルパー2級の講座への参加や研修については、情報を集め、適時研修の参加を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市内グループホーム協会に参加し、交流できている。研修会には参加し研修の機会も持つことができている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時や入所されてからも、要望や不安なことなどの収集を行い、スタッフ間に周知してもらい、本人との信頼関係を作り取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 開始に当たり、不安なこと要望などを問題解決になれるよう話し合っている。入所されても施設に慣れるよう本人、家族様とは話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始に当たり、本人のできること、できないことを見極め、施設としてもできること、できないことなどの話し合いケア計画を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の様子観察を行いさりげなく本人の思いを知ることにより努め思いやりのあるケアを心がける。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に利用者さんの近況報告、また家族様から希望の聞き取りをしている。請求書送付のときテレサの1ヶ月の状況報告や予定をお知らせし、遠方の方は本人の様子などを簡単だがお知らせしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人の訪問は少なくなっているが、在宅時よりのお花の教室へ家族様の協力で毎週通われている方がいます。地元の方とは近くの郵便局へは同行してもらっています。 (外部評価) 楽しみとなっている家族との外出が継続できるよう支援している。また、住み慣れた町内会の行事や行きつけの美容院へも出かけている。毎月ホームに来る移動パン屋で好きな物を選んで買い、おやつの時間に食べるという楽しみがあり、入居後に築いた馴染みも大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 同じ地区からの方同士や普段の過ごし方から食卓の場所を決め、トラブルを避けている。歌が好きの方が多く手作りの歌本で仲良く唄われることが多くなった。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されての終了なので、機会があればお見舞いしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に入居者の気持ちを一番に考え本人の意向を尊重し本人らしく生活できるよう話し合い検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりに寄り添い聴く姿勢を大切にしている。会話の中から考えや思いをうまく引き出したり、表情や態度や行動からも把握できるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時 または普段の生活の会話の中から情報収集を行っている。入所前の居宅支援事業所のフーエースシートも利用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの中で把握に努めている。体調の管理も行い、適時受診や病院からの指導を受け、健康に過ごせるよう支援している。結果は個人ノートや介護記録などで把握している。適時家族にも報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は職員全員からケアに必要な情報を聞き作成している。また作成前には本人 家族の意見、希望を確認している。 (外部評価) 介護計画は計画作成担当者が主となって、利用者や家族、関係する職種からの情報や意見を反映して作成している。今後は記録を充実させ、質の高い介護計画となるよう積極的に研修会等に参加し、職員のレベルアップを図りたいと考えている。	記録についての外部研修に複数の職員の参加が決まっており、さらにレベルアップに向けての取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 入居者の個人ノートを作成し個別の記録を行行情報の共有に勤めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ADL低下の患者に外来リハビリを利用できるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市内のボランティア（コーラスグループ）さんの訪問があり楽しい時間が持てた。またお祭りには太鼓台の訪問がある。地元の公民館の行事にも参加できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的なお薬の対応や急変時の対応などしてくれている。急変時は24時間対応してくれている。	
			(外部評価) 隣接する母体病院をかかりつけ医とする利用者が多 い。他の医療機関をかかりつけ医としている利用者の 受診は家族が対応しているが、母体に要員の医師から 電話や文書で情報提供を行う等、適切な医療を受けら れるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 外来受診時などに報告、相談し指示をもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報交換や入院に至った経緯を報告してい る、	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) レベル低下や体調の変化など、重度化が感じられ たら、主治医、家族、テレサ職員と今後の方針を話し合 い家族様に選択してもらっている。	
			(外部評価) 事業所での看取りは行っていない。入居時に方針につ いて説明し、入居後状態に応じてその都度話し合っ ている。主に座位がとれなくなり風呂場での入浴が困難 と判断した時に、利用者や家族、医師、職員と今後につ いて話し合いを行っている。必要に応じ関係機関と の連携支援も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時はすぐに病院に連絡 指示を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練は、消防署の立会いで実施したが、職員の入れ替わりもあり、新人には防火についての指導を行った。地域との連携は運営推進会議を通じて連携を構築中（東北震災があり市の指導が進んでいない） (外部評価) 消防署立会いでの訓練は毎年行っている。運営推進会議では防災について毎回話し合わせ、近隣を巻き込んで訓練をしてはどうかという意見が出されている。また、事業所を地域の避難場所として提供する用意がある。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、声かけなどに気をつけている。その人に合わせた話し方や接し方を心がけ自尊心を傷つけないような支援を行っている。 (外部評価) 職員は、自分がされたら嫌な事はしないということを基本にし、特に排泄時や居室に入室する時等は羞恥心や自尊心を傷つけない対応を心がけている。各々の個性を見極め、一人ひとりを尊重した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の中で洋服選びや細かなことなどでも利用者さんがどうしたいのか、聞きながら対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人個人の日課の過ごし方は、ほとんどが利用者さんのペースで過ごせている。散歩など外に出るのが好きな人は、近くを散歩したり、近くの郵便局にも一緒に行ってもらい外に出る機会を作っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2月に一度、散髪屋さんに来てもらい、似合いの頭にカットしてくれている。洋服も季節に合う服を着替える時に一緒に選んだり、家族も季節ごとに洋服の準備をしてくれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ジャガイモの皮むき、一緒にお好み焼きやハンバーグを焼いたり行事食や季節の食材を使いその季節しか食べられないものを職員が家庭から用意したり、お誕生日は誕生者の食べたいもの聞きメニューに取り入れ皆と一緒に食べます。食器も個人個人のを用意し、力のない人はもちやすい容器を使ってもらっています。 (外部評価) 料理上手の職員が多く、冷蔵庫の食材を見て献立を立てたり、利用者に「今日は何が食べたい」と希望を聞き入れながら毎回バランスの良い美味しい食事作りをしている。入居者の食も進み、大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食がおかゆの人は、お粥専用の炊飯器で炊き、食欲や栄養のバランスを考え、料理づくりをしています。水分量は不足しないよう、食事やおやつ時間や入浴後以外にも取れるよう、お茶の時間を作ったり、体調の悪い人は水分量を記録したりしています。夜間もペットボトルや急須に入れ居室に持っていきます。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを支援しています。自分でできない人も介助にてできています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 寝たきりで、毎朝便失禁があった方を毎食後トイレに座ってもらうことで、便失禁の回数が減ってきている。自分で歩けない人も、全員トイレ介助を行い、尿失禁が少なくなっている。 (外部評価) 一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握し、個別の対応方法を職員間で話し合い、トイレでの排泄を支援している。便秘気味の時には自然に排便できるよう食事面での配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘のある人は、排便チェックを行い、指示された便秘薬の服用介助や冷たい牛乳を飲んでもらったりと、便秘を防いでいる。水分摂取も心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴はできるだけ、入浴できるよう、曜日を決めずに行事日以外入浴してもらっている。午後からの入浴が多いが、入浴拒否の強い人には、その人が拒否せず入れる時間に準備し入浴してもらっている。 (外部評価) 職員は時間や曜日、入浴回数等が利用者の希望に沿えるようタイミングや声かけ等の対応を工夫しながら支援している。また、会話をしながらゆったりした時間を楽しみ、清潔を保てるよう丁寧に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼間フロアで過ごしていただいたり、午前、午後リハビリ体操を取り入れ運動してもらったりしている。最近では夜間不眠で夜中一晩大声を出していた人が、夜間に睡眠が取れるようになった。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬は施設で預かり、お薬の指示に従い、手渡しや服薬介助にて服用できている。用法や用量は全職員が認識できている。(薬局よりお薬の用法のプリントをもらって管理している)	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人のできるお手伝いをしてもらっている(洗濯たたみや掃除)。最近は歌の好きな方が多く手作りの歌本などで皆と一緒に唄って楽しんでいる。散歩もお天気や気温など確かめ、近くを散歩する支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 在宅時よりお花を習っている人は、ご主人の送迎で続けられている。公民館活動も地元の入所者さんには職員が同行し参加している。散歩はテレサ周辺をまた近くの郵便局に一緒に行ってもらったりしている。	
			(外部評価) 散歩を日課としている利用者を支援したり、地域の郵便局や公民館等日常的に出かけている。家族と一緒に外出することを積極的に支援している。今後は運営推進会議の議題としてボランティアの協力を得ることも協議していくよう進めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一月に1回 パンやさんにきてもらい、好みのパンを買う支援をしている。家族さんの理解も得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書くのが好きな方がいるので、投函は職員が支援している。電話も自由にかけられている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夏はよしずを各部屋にかけている。フロアは日差しにあわせ、ブラインドで調整している。壁画は季節を感じられるよう入所者さんと飾り付けをしている。	
			(外部評価) 廊下や食堂、リビング、トイレ等事業所全体がゆったりとした造りになっている。窓が多く、外の景色を見る事ができ開放感がある。また、掃除が行き届き清潔が保たれた空間には、季節の花や利用者と職員手作りの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入所し施設になれると思いきい思いで過ごしてくれている。気のあった人は同じテーブルで過ごしたり、自然に暮らしてくれている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇を持ってきている方もいる、朝のお水やお供えは職員が介助している。居室がいつも忘れる人はすぐに部屋がわかるよう名札をわかりやすく作っている。	
			(外部評価) 大きなクローゼットが備え付けてあるので居室内がすっきりした感じがするが、使い慣れた物を自由に持ち込み、思い思いの居室となっている。職員は臭いや衛生面に気を配り、居室が分かりやすいように入り口に目印を付ける等工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 屋内はバリアフリーで車椅子でも一人で移動ができ、食卓やトイレなども介助なしで動けている。	